

令和6年度第1回 仙台市立病院経営評価委員会議事録

- 1 日時 令和6年8月28日(水) 18:00～
- 2 会場 仙台市立病院 3階第2会議室
- 3 出席者 藤森研司委員長、島村弘宗委員、今西陽一郎委員、矢川昌宏委員、大和一美委員(委員5名)
奥田病院事業管理者、渡辺院長、八木医療管理監、伊藤理事、山口次長(兼)経営管理部長、佐々木看護部長、松本健康福祉局保健衛生部長、太田経営管理部参事兼総務課長、佐々木健康福祉局保健衛生部医療政策課長、堀江経営医事課長、小林情報システム課長、高橋財産管理課長、中田総合サポートセンター副センター長、吉野経営医事課主幹兼企画医事係長、鈴木経営医事課財務収納係長、荻原財務収納係主任、武田診療情報管理士、渡邊診療情報管理士

4 次第

- (1) 開 会
- (2) 挨拶
- (3) 報 告
 - ① 令和5年度 事業実績及び決算について
- (4) 議 事
 - ① 「仙台市立病院経営計画(2022年度～2024年度)」進捗状況について(2023年度実績及び2024年4月～6月実績)
 - ② 「仙台市立病院経営計画(2022年度～2024年度)」における目標値の変更について(案)
 - ③ 「仙台市立病院経営計画(令和7年度～令和9年度)」策定について
- (5) そ の 他
 - ① 仙台市医療政策基本方針について
- (6) 閉 会

配付資料

- 資料1-1 令和5年度事業実績
- 資料1-2 令和5年度決算の状況
- 資料2 「仙台市立病院経営計画(2022年度～2024年度)」進捗状況
- 資料3 「仙台市立病院経営計画(2022年度～2024年度)」における目標値の変更について(案)
- 資料4 「仙台市立病院経営計画(令和7年度～令和9年度)」策定について
- 資料5 仙台市医療政策基本方針 [概要]

<議事概要>

- (1) 開会
- (2) 挨拶
奥田事業管理者から挨拶。
- (3) 報告
 - ・会議公開の確認⇒異議なし(傍聴者1名)。
 - ・議事録署名委員を今西委員、矢川委員に依頼。⇒了承。
 - ① 令和5年度 事業実績及び決算について
(事務局から資料1-1、資料1-2を説明)
(質疑応答)
【矢川委員】

今、説明のあった令和5年度決算について確認したところ、かなりいい状況である。私自身で分析をしてみたが、令和6年3月期の医業収益は172億600万円、医業費用は193億5,600万円、医業損失は21億5,000万円となっており、令和4年度よりも医業損失は小さくなっ

ている。また、現金支出を伴わない減価償却費の14億1,600万円を加味すると、医業キャッシュフローは令和5年度がマイナス7億3,400万円、令和4年度はマイナス14億3,100万円であり、6億9,700万円キャッシュフローが増えている。経常損失は4億8,600万円であり、減価償却費は14億1,600万円なので経営キャッシュフローはプラス9億3,000万円である。令和4年度は補助金があったので、経常収支がよかった。令和5年度は、支払い利息の2億3,100万円を加味すると、11億6,100万円であり、これが今よく使われるEBITDA（イービットディーイー）である。

一方、企業債現在高が202億3,600万円、現金預金は令和5年度末時点で85億7,700万円であり、差し引きすると純債務が116億5,900万円となる。この純債務を経常キャッシュフローで割った債務償還年数が12.5年である。債務償還年数が20年以下であれば公営企業は経営上問題がないと言われている。

次に紹介したいのは、EV（エンタープライズバリュー）という概念であり、これは事業価値のことであり、いわゆる純資産である。令和5年度は、累積欠損金プラス資本金で86億7,100万円、これに企業債の残高から現金預金を引いた116億5,900万円を加えたものが203億3,300万円となり、これが事業価値である。

簡易な方法ではあるが、この事業価値（＝203億3,300万円）をEBITDA（＝11億6,100万円）で割ると、投下資本に対する回収年数が求められ、17.5年となる。私は、仙台市のガス局の民営化委員になっており、そのときも事業価値の算定をしたことがある。市立病院を民営化した場合の事業価値は、簡易の方法で算出すると203億3,300万円ということなる。

純債務が116億5,900万円で、累積欠損金プラス資本金が86億7,100万円なので有利子負債倍率が1.34倍となる。財務の目標は1倍以下であるが、令和4年度に比べると改善している。

また、正職員1人当たりの収益が1,959万6,000円、人件費が1,166万1,000円であり、差し引きすると793万5,000円となる。なお、令和4年度と比較すると165万4,000円増えているため、令和4年度に比べて人が減った分だけ労働生産性が上昇しているのが分かる。

令和6年度の正職員数に関して、看護師が14名減って、医療技術職が14人増えると記載してあるが、これはどういう理由なのか伺いたい。

【仙台市立病院事務局 太田参事】

医療技術職を増やすというのは方向性としてあるが、正職員は、来年度増える予定は1桁の数である。看護師の正職員数に関して、令和6年度は増員することを考えている。

【矢川委員】

看護師の正職員数は、令和6年度は増員することを考えているとのことだが、令和5年度は看護師が569名で令和6年度は555名となっており、14名減少と記載されているのはどういうことか。

【仙台市立病院事務局 太田参事】

看護師に関して、令和5年度は退職者が多く、新規採用も行ったものの、採用者を上回る数の退職者がいたことから、令和6年度は例年よりも多めに採用し、令和7年度4月には挽回したいと考えている。合計が881名となっているが、もっと増える可能性がある。

【矢川委員】

承知した。

材料費率が、令和4年度は医業収益に対して26.6%だったが、令和5年度は27.6%であり、1ポイント上昇している。これは医薬品単価の上昇、或いは診療内容の変更等があって単価が増えたのか伺いたい。

【仙台市立病院事務局 高橋財産管理課長】

材料費が増えた理由は、診察や検査で使用する診療材料や薬品の購入量が増加していることや輸送費などの高騰の影響もあると考えている。

診療材料、医薬品いずれも今後、価格交渉を控えているところであるものの、医薬品の1社流通品については他社の取り扱いが無いものであるため、価格交渉が難しいことに加え、後発医薬品についても不採算品再算定という制度があり、薬価が下がりすぎると製造販売していくことが難しいため供給を確保するために薬価を引き上げるところもあり、苦戦しているが、ベンチマークを参考にし、交渉する努力をしているところである。

【仙台市立病院事務局 太田参事】

仙台市では給与表という言い方にはなるが、医師や看護師はそれぞれの給与表で適用となり、薬剤師は行政職の給与表が適用となっている。

【藤森委員長】

薬学は6年生になったので、医師や歯科医師と同じ学歴であるものの、病院の給与が低いという理由から病院へ就職しないというケースもある。今後は、医療職の給与体系に踏み込んでいかないとなかなか薬剤師が集まらなくなっていくと言われているようだ。

- ② 「仙台市立病院経営計画（2022年度～2024年度）」における目標値の変更について（案）
（事務局から資料3を説明）
（質疑応答）
⇒ なし

- ③ 「仙台市立病院経営計画（令和7年度～令和9年度）」策定について
（事務局から資料4を説明）
（質疑応答）

【藤森委員長】

「仙台市立病院経営計画（令和7年度～令和9年度）」策定の取り組みに関して、9月に向けて委員はどのようなアクションをすればよいのでしょうか。

【仙台市立病院事務局 堀江経営医事課長】

事務局から委員の皆さまに対し、骨子案に関するご意見をメールでお伺いするという形をとらせていただき、9月10日の火曜日を自途にご意見をいただければと考えております。

【今西委員】

目標Ⅰの課題1「戦略(2)手術需要に応じた手術センター機能の更なる強化」については、大事な取り組みであると理解しているが、具体的に手術室の増室を検討しているなど、現時点で考えている取り組みの情報をいただけると次期経営計画の検討をしやすいと考えているが、現時点で教えてもらえる情報はるか。

【仙台市立病院 奥田事業管理者】

手術室増設を検討していくうえで、手術室として増設可能な場所を調査している状況であるとともに、救急外来に手術室として使用できる部屋があるため、その活用についても検討を進めていく予定である。

また、設備面の整備だけでなく、人員体制の整備も必要となるため、慎重に検討を進めていこうと考えている。

【今西委員】

市内の病院との関係も考慮しながらになると思うが、このまま貴院の機能が上がり続けた場合、おそらく手術室はすぐに足りなくなる事態が想定されると思う。

そういった場合に、現在の手術室のエリアでどのように増やしていくか、また、全身麻酔と局所麻酔を分けて手術室を構成するなど、いくつかのプランが出てくるのではないかと思うが、いずれにしても令和4年度と令和5年度を比較して650件増えている状況に対応できるように検討するだけでは、すぐに逼迫すると想定されるため、ぜひ中長期的な考えが次期経営計画の中に示していただけるとよいかと考える。

【仙台市立病院 奥田事業管理者】

現在の手術室数で平日の準夜帯に定期施術枠を設けるなどの検討などをまずは進めていき、その後に手術室の増設などを検討していく。

【今西委員】

目標Ⅱの課題2「戦略(1)診療材料費、医薬品費、委託費等の更なる縮減」について、現在は収益の増加は順調に推移しているので、あまり問題はないかと思うが、費用の抑制は、細かな対応がこれから必要になってくると考える。そのため、費用抑制については、具体的な目標設定は難しいとは思いますが、ある程度の目安のようなものを検討してもらい、次期経営計画の中に示していただきたいというのが一つあります。

もう一つは、収支改善を図るための方策として、医業外収益を増やしていく取り組みも次期経営計画の中に入れてもらいたい。また、外部アドバイザーの活用という記載があり、おそらく費用系コンサルタントの活用も検討していると思うが、他病院の事例では、職員自ら

【仙台市立病院事務局 渡辺院長】

現在は、3交代で24時間対応している。

【藤森委員長】

ダヴィンチ導入にあたっては、新たにダヴィンチ専用の手術室を作る予定なのか。それとも、既存の手術室にダヴィンチを設置する予定なのか。

【仙台市立病院事務局 渡辺院長】

既存の手術室にダヴィンチを設置する予定である。

【藤森委員長】

既存の手術室にダヴィンチを設置することに加え、手術件数も増加しているので徐々に手術室も圧迫してくるのではないか。

【仙台市立病院事務局 渡辺院長】

手術枠の拡充については、手術ワーキンググループを設立し検討を進めている。

【矢川委員】

令和元年から消費税率が10%となり、令和5年10月からインボイス制度が始まり、控除対象外消費税が増えている。自治体病院の場合は、この部分を回収する手段がないが、民間企業の場合は、控除対象外消費税は損金になるため、法人税がその分少なくなり、そこで回収されている。

一方、自治体病院の場合、建前上は保険診療収入でその部分を補填していると言われていたが、現状はなかなか厳しく、また、保険診療収入を課税対象にするのはなかなか難しい。税制面で実際患者からいただいている消費税よりも多く払っている場合、通常であれば還付されるが、それは今の制度上できないため、何とかしなければならないということで、今動き出している。

仙台市立病院の決算値を見ると、消費税は原則税抜処理なのだが、控除対象外消費税については、費用に含めている。控除対象外消費税については、勘定科目の設定をしていない。固定資産については、前払いで償却していると思うが、今話したことがトレンドとしてあるので、控除対象外消費税という勘定科目を租税公課に切り換えて、明確にその費用の部分から除くという方法を取る自治体病院が増えているので今後、検討いただきたい。

【島村委員】

8ページの「戦略IV-1:「患者さんの声」を傾聴し、顧客満足度の向上を図る」の「2023年度 主な取り組み状況」の中に医療費の新たな支払い方法としてコンビニ納付を開始とあるが、患者に対して会計時に「後日、コンビニで支払ってください」と案内し、患者は支払いせずに帰ってしまうということか。

【仙台市立病院事務局 堀江経営医事課長】

コンビニ納付は1つの支払い手段である。例えば、県外の方が当院で里帰り出産して元の居住先に戻るといったケースの場合、当院の指定金融機関がないという方も結構いるので、そういう方にコンビニ納付という選択肢を提示し、割賦をお渡ししてお支払いいただいている。患者全員というわけではなく、今のところはある程度対象を絞っている。

【大和委員】

8ページの「戦略IV-2:組織横断的連携・協力体制強化し、職員満足度の向上を図る」の「2023年度 主な取り組み状況」の中で職員満足度調査において、人員不足や業務量が是正されていないということで、満足度に関しても若干、目標値に達していない状況である。昨今、病院薬剤師が足りていないという報道をよく聞くが、貴院では薬剤師の定員に関しては、必要数は確保されているのか。

【仙台市立病院事務局 奥田事業管理者】

薬剤師の必要数は確保しているが、今後、薬剤師業務が拡大していく場合には、増員も検討していく必要がある。

【藤森委員長】

市の給与体系では、薬剤師は他の職種の何相当に該当するか。医師相当、看護師相当、放射線技師相当などいろいろとあるとは思いますが。

(4) 議事

① 「仙台市立病院経営計画（2022年度～2024年度）」進捗状況について

(2023年度実績及び2023年4月～6月実績)

(事務局から資料2を説明)

(質疑応答)

【藤森委員長】

2ページ目「戦略Ⅰ-2：更なる高度医療提供体制の構築を目指す」の「目標と実績」における外来腫瘍化学療法件数が目標に届いていない状況である。その原因は、入院での化学療法をメインとしているからなのか、それとも外来化学療法の運用上で課題があるからなのか。

【仙台市立病院事務局 奥田事業管理者】

入院、外来のどちらかをメインとして実施しているわけではなく、患者の都合やレジメンにあわせて外来又は入院で実施しているものの、化学療法適応患者が伸び悩んでいる状況である。

また、外来化学療法室の運用では、午後の早い時間帯はすぐに予約枠が埋まってしまうが、午前の早い時間帯などの予約枠が開いているなどの課題はある。

【藤森委員長】

戦略としては、外来化学療法を伸ばしていく方向性なのか。

【仙台市立病院事務局 奥田事業管理者】

外来化学療法を伸ばしていく方向で考えている。

【藤森委員長】

各診療科に一定程度の目標値を示しているのか。

【仙台市立病院事務局 奥田事業管理者】

診療科毎に目標値の設定はしていない。

【藤森委員長】

目標を達成していくためには、各診療科に目標値を設定するなどの取り組みも必要ではないかと考える。

【仙台市立病院事務局 渡辺院長】

領域に関しては、乳腺、大腸、結腸、血液内科の疾患が少しずつ増えている状況であるが、劇的に増加しているわけではない。また、その他の疾患に関しては、横ばいであるため、院内の状況を踏まえて検討していきたい。

【矢川委員】

以前から貴院は紹介率と逆紹介率が他の自治体病院よりも非常に高い印象を持っている。5ページ目「戦略Ⅱ：診療体制を強化し、患者確保を図る」の「2023年度 主な取り組み状況」の中に地域関係機関との「顔が見える関係」の構築とあるが、開業医または公立、民間病院の先生方との交流のことなのか。

【仙台市立病院事務局 中田総合サポートセンター副センター長】

「仙台市立病院地域連携のつどい」については、前方連携という点で地域のクリニックの先生方、後方連携という点で回復期病院の先生方に加え、包括支援センター、訪問看護ステーションなどの関係機関の方々を呼んで連携を深めている取り組みである。

【仙台市立病院事務局 渡辺院長】

多くの医療機関は医師を中心の会議を開催すると思うが、当院ではソーシャルワーカーも含めて参加していただいて連携を深めている。

【島村委員】

手術件数が増加していることから、手術枠数を増やす必要がでてくると思うが、そうなった場合の手術室看護師の配置については、他の病棟から異動させて増員させるなどの工夫をしているのか。

【仙台市立病院事務局 佐々木看護部長】

手術室看護師の増員はしていないが、看護師の働く時間帯を少しずらして長時間の手術に対応できるように工夫している。また、全体的に人材確保に苦勞している状況であり、必要があれば他部署からの応援体制で対応している。

【大和委員】

入院患者数と手術件数がいずれも増えており、入院収益が非常に増えたという印象があるが、患者1人当たりの診療単価が跳ね上がっているのは何か原因があるのか。

【仙台市立病院事務局 堀江経営医事課長】

令和5年度の手術件数が令和4年度に比べて650件ほど増えたことが、入院の診療単価を押し上げた最大の要因ではないかと分析をしている。

【今西委員】

補足になるかもしれないが、令和4年度と令和5年度を比較すると手術料が概ね3億円以上、上昇している。また、先ほど話があった材料費の高騰に関しては、外来の注射料が1億7,000万円ほど増えており、医療の高度化、外来の化学療法が増えたことが、材料比率が上昇した要因と推察している。このようなことから入院診療単価のアップに繋がっている。

もう1つ、決算という意味で評価したいのは、補助金や繰入金を除いた修正医業収支比率は85%程度を目指すのが一般的であるが、令和4年度は84.8%で令和5年度の決算のデータを確認すると88.9%となっており、補助金が減少したということはあるものの、それ以上に稼ぐことができたのだろうと分析している。ただし、少し心配なことは令和6年度予算の医業収益比率が85%に落ちているため、もう少し努力が必要ではないかと考えている。

【藤森委員長】

職員数に関して、令和4年度と令和5年度を比較して看護師が21人減っていることは影響ないのか。この人数でも多いと思うが、どうか。

【仙台市立病院事務局 奥田事業管理者】

夜勤を維持するのがなかなか大変である。基準は満たしているが、夜勤可能な職員が少ないため、会計年度任用職員や臨時職員の募集を行うとともに、夜勤専従可能な看護師を現有職員の中で募ることで対応している。

【藤森委員長】

病棟に勤務している看護師は何人か。

【仙台市立病院事務局 佐々木看護部長】

1病棟26~28人程度なので、病院全体では400人程度である。

【藤森委員長】

当直しているのは何人か。

【仙台市立病院事務局 佐々木看護部長】

一般病棟で200人程度である。

【藤森委員長】

病棟勤務の400人の看護師の中で当直が免除されている看護師は何人か。

【仙台市立病院事務局 奥田事業管理者】

相当数いると思われるが、具体的な人数までは把握していない。

【藤森委員長】

夜勤可能な看護師を増やさないと、夜勤が回らなくなってくると思うが、看護師の人数は十分すぎるほどいるので、夜勤体制をしっかりと整えていく必要がある。

【島村委員】

医師の働き方改革が開始され、超過勤務は可能な限り抑制する方向で意識していると思うが、職員給与費について徐々に上がっているということは、それでも超過勤務が増加しているということなのか。

【仙台市立病院事務局 太田参事】

仙台市立病院はB水準であるということと、公立病院であるため給与人事院勧告に基づいて職員給与費が増減する。

また、物価高により、民間企業も給料が上がっていることから、前年度の決算と比較して数%程度基本給も上がる想定であり、医師に限らず、職員全体の賃金アップがあるだろうと見込んでいる。

が提案してナースシューズの支給を廃止することで費用抑制に取り組んだという例もあるため、コンサルタントの活用と併せて職員のコスト意識を高めてもらえる取り組みも検討していただきたいと考える。

【藤森委員長】

目標Ⅰ課題2「戦略(1)救命救急センター機能の強化」の具体的な取り組みの中で、「多くの重篤患者を受け入れるための下り搬送の強化」については、非常に重要である。下り搬送というと、令和6年度診療報酬改定における救急患者の入院後3日以内の転院搬送のイメージが強くなっているが、貴院の課題となっているのは、1週間、2週間又は3週間と長期入院となってしまふ救急患者の転院ではないかと思うが、この取り組みに含まれるのか。

【仙台市立病院事務局 奥田事業管理者】

それも含めて考えており、1つは令和6年度の診療報酬改定における救急患者の入院後3日以内の転院搬送に加え、仙台市救急医療病院間連携推進事業の救急患者を15日までの転院の取り組みも考えている。

【藤森委員長】

下り搬送という言葉で区切ってしまうと長期入院に対する転院に関しての取り組みが見えてこないかと思うので、下り搬送及び転院といった文言に変更してはいかがか。

【仙台市立病院事務局 吉野経営医事課主幹兼企画医事係長】

転院に関しては、目標Ⅰ課題3「戦略(2)急性期治療後の切れ目のない医療提供体制の構築」の具体的な取り組みの中の「後方支援病院の更なる確保」で検討していきたいと考えている。

【藤森委員長】

救急科以外の診療科については、転院に関しては全く問題ないのか。

【仙台市立病院事務局 渡辺院長】

血液内科などは、転院調整に苦慮している。

【藤森委員長】

後方連携について、救急科以外の診療科でも課題となっているのであれば、他の診療科も含めた転院の促進を目標管理していった方がよいのではないかと考える。

(5) その他

- ① 仙台市医療政策基本方針について
(健康福祉局保健衛生部から資料5を説明)
(質疑応答)
⇒ なし

(6) 閉会

以上

議事録の記載内容につきまして、すべて相違ありません。

令和 6 年 11 月 11 日

議事録署名委員

今西陽一郎

矢川昌宏
